

[25_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1474978>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 25 (1), 1992-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

広報教育室だより

UXPにおける電子メールの読み書き

この広報が発行される頃には、1987年9月より約4年間にわたりセンターのUNIXシステムであったUTSがUXPにレベルアップされていることと思います。UXPについては今回の広報解説記事にも説明されていますが、電子メールの利用法に関する限り基本的に従来とほとんど同じです。以下に、実際の使用例を示しながら、電子メール読み書きの最低限の利用法について解説します。なお、以下の例でアンダーラインの付いたところが実際の入力部分です。

(1) メール読み方

UXPにログインしたとき、もし新しい電子メールが届いていると“You have mail”というメッセージが表示されます。メールを読むときは“mailx”と入力します（もしメールが1つも届いていないならば、“No mail for 利用者番号”というメッセージが表示される）。ここでメールヘッダの一覧が表示されますので、順次リターンキーを入力していけば古い順にメールを読むことができます。メールヘッダの意味は次のとおりです。

```

> N 2 ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp Tue Jul 24 09:54 46/1562 Re: membership
      メール発信者アドレス      メール送信日時      メールのSubject
> .... カレントメールの位置を示すマーカー（メール番号を指定しないとこの
      マーカーの付いたメールを処理の対象とする）
N .... メッセージの状態フラグ
      N 前回の mailx コマンド終了以降に届いた新規メールであることを示す
      U 以前に届いたメールであるがまだ読んでないことを示す
      * メールをファイルに保存したことを示す
      空白 メール内容を読んだがまだ保存していないことを示す
2 .... メッセージの番号
46/1562 .... メッセージの行数が46行/文字数が1562文字

```

メールシステムのサブコマンド入力要求プロンプト“?”に対して入力可能なサブコマンドの種類およびその簡単な説明は、“?”を入力すれば表示されます。メール処理を終了するときは“x”または“q”を入力します。“q”で終了すると、今回読んだメールを利用者のホームディレクトリのファイル“mbox”に自動的に保存されます。後でもう一度この mbox に保存されたメールを読みたいときは、“mailx -f”と入力してください。以下に使用例を示します。

```

% mailx ..... メールコマンドの起動
mailx version 2.14 09/17/90 Type ? for help.
"/usr/mail/a79999a": 4 messages 4 new
>N 1 S-newsd@math.keio.ac.jp Tue Jul 24 08:50 24/972 Please remove me from S-news
N 2 ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp Tue Jul 24 09:54 46/1562 Re: membership
N 3 a49915a@nucc.nagoya-u.ac.jp Tue Jul 24 12:47 23/930 NUGW down
N 4 S-newsd@math.keio.ac.jp Wed Jul 25 08:50 33/1211
? 2 ..... 2番目のメールを読む
Message 2: (最初から順に読むときはリターンキーだけでよい)
From ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp Tue Jul 24 09:54 JST 1990 ..... 以降はメール内容

```

専門室だより

Received: from ccku-gw.cc.kyushu-u.ac.jp(ccku-gw) by kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
(4.12/6.4J.6) id AA03581; Tue, 24 Jul 90 09:54:27 JST
Received: from tokyogw2 by ccku-gw.cc.kyushu-u.ac.jp (5.61/6.4J.6)
id AA02948; Tue, 24 Jul 90 09:50:05 +0900
Received: from zzz.pe.u-tokyo.ac.jp by ccut.cc.u-tokyo.ac.jp (5.61/6.4J.6-ut2.95)
id AA20804; Tue, 24 Jul 90 09:54:23 +0900
Received: from localhost.WIDE by zzz.pe.u-tokyo.ac.jp (4.0/1.01W)
id AA17198; Tue, 24 Jul 90 09:54:34 JST
Return-Path: <ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp>
Message-Id: <9007240054.AA17198@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp>
To: itano@hlla.is.tsukuba.ac.jp (Kozo ITANO [HLLA])
Cc: ccut-adm@ccut.cc.u-tokyo.ac.jp, nacsis-inet@ccut.cc.u-tokyo.ac.jp
Subject: Re: membership
In-Reply-To: Your message of Mon, 23 Jul 90 22:10:45 +0900.
<9007231310.AA05163@hlla7.hlla.is.tsukuba.ac.jp>
Reply-To: ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp
Date: Tue, 24 Jul 90 09:54:33 +0900
From: ishida@zzz.pe.u-tokyo.ac.jp
Status: R

..... メールの本文
.....
.....

:_ 次の頁の本文を読むときはリターンキー入力
(次の頁以降は読み飛ばしたいときは q を入力)

.....
.....
.....
(EOF):_ 本文の終わり, リターンキーを押す
? s 2 uxp.mail 2番目のメールをファイル uxp.mail に保存
New File [uxp.mail] (もし uxp.mail が既存ファイルならその最後に追加される)
? 3 次のメール番号指定
(ここで h を入力するとメール番号とヘッダー一覧が再表示される)

Message 3:
From a49915a@nucc.nagoya-u.ac.jp Tue Jul 24 12:47 JST 1990
Received: from ccku-gw.cc.kyushu-u.ac.jp(ccku-gw) by kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
(4.12/6.4J.6) id AA08852; Tue, 24 Jul 90 12:47:15 JST
Received: from tokyogw2 by ccku-gw.cc.kyushu-u.ac.jp (5.61/6.4J.6)
id AA04252; Tue, 24 Jul 90 12:42:56 +0900
Received: by ccut.cc.u-tokyo.ac.jp (5.61/6.4J.6-ut2.95)
id AA26713; Tue, 24 Jul 90 12:47:10 +0900
Received: by nucc.nagoya-u.ac.jp (4.12/6.4J.6)
id AA23683; Tue, 24 Jul 90 11:13:32 JST
Date: Tue, 24 Jul 90 11:13:32 JST
From: a49915a@nucc.nagoya-u.ac.jp (Akiumi Hasegawa)
Return-Path: <a49915a@nucc.nagoya-u.ac.jp>

Message-Id: <9007240213.AA23683@nucc.nagoya-u.ac.jp>
 To: naccsis-inet@u-tokyo.ac.jp
 Subject: NUGW down
 Status: R

.....

 (EOF):_ 本文の終わり, リターンキーを押す
 ? q メール処理を終了
 (メール終了には q のほかに x がある. 両者の違いについては以下を参照)

Saved 2 messages in /usr/usr9/a79999a/mbox
 Held 2 messages in /usr/mail/a79999a
 %

メール処理を終了するとき x でなく q サブコマンドで終了すると, 次回 mailx コマンドでメールシステムを起動したとき, 前回読んだメールは画面に表示されません. これは, q サブコマンドで終了した場合, それまでに読んだメールをすべて利用者のメールボックスファイル(デフォルトでは mbox)に強制的に保存してしまうからです. このようなとき, 既に読んだメールを再度読みたいときは, 単に mailx と入力せず

% mailx -f mbox (あるいは % mailx -f でもよい)

と入力してメールシステムを起動してください. ただし, s サブコマンドによりメールをファイルに保存した後 q コマンドで終了すると, メールボックスファイルには保存されずにシステムから削除されます.

x サブコマンドで終了するとこのようなことはなく, 前回読んだメールもすべて画面に表示されます. メールシステムに慣れるまでは q ではなく x サブコマンドによって終了するのが安全でしょう. ただし, いつまでもこのままだとメールの数が多くなるにつれ, どれが読んだメールでどれがまだ読んでないのか混乱してきます.

なお, 不要になったメール(例えば 2 番目, 4 番目, 5 番目のメール)を削除するためには, メールシステムのプロンプト "?" に対して

? d 2 4 5

と入力し, 終了するとき必ず q サブコマンドで終わります. x サブコマンドで終了すると, それまで入力したすべての処理はキャンセルされ, メールは削除されません.

以下に, メールを読むときの主なサブコマンドを示します. 詳細については ? サブコマンドを使って確認してください.

- ? サブコマンドの機能一覧を表示
- 番号 その番号のメール内容を表示
- h メール番号, 到着日付, subject などのヘッダー一覧を表示
- z メールの数が多すぎてヘッダー一覧が 1 画面に納まらないとき次の画面に移動
- z- 上とは逆に 1 つ前のヘッダー一覧の画面に戻す
- d 削除したいメールの番号をスペースで区切って並べる
- s メールをファイルに保存する
- q x それまでの処理(メールの削除など)をすべて有効にして終了
- x x それまでの処理をすべてキャンセルして終了

.....

(2) メールの出し方

メールを出す方法には次の2つの方法があります。

(a) メールの内容を、あらかじめエディタなどでファイルに作成しておき、

`% mailx -s "半角英数字のメール要旨" メールアドレス < メールファイル名`
としてメールを送信する。

(b) まず、

`% mailx アドレス`

と入力すると "Subject:" を質問してくるので、メールの内容を表わす短い文を半角英数字 (漢字は使えない!) で入力し、続けてメールの本文を入力し、終わったら `ctrl+d` (または、行の先頭で"`^.`"に続けてリターンキー入力) を押す。途中で中断するときは `ctrl + c` を2回押す。なお、本文入力中に以下のサブコマンドを利用することができる (このメール編集用サブコマンドは上記(1)のメールを読むためのサブコマンドとは異なる!)。

- `^v` エディタを起動する (以下の `.mailrc` ファイルで `VISUAL=vi` としているときは `vi` (日本語対応 `vi`) が起動される
 - `^h` メールヘッダ (subject, To, cc, bcc) を編集する
 - `^f` 既存ファイルの内容をカーソル位置に読み込む
 - `^p` メールヘッダおよびメール内容を表示する
 - `^?` HELP機能. サブコマンドの使い方を表示する
 - `^.` 本文の入力を終了し、メール転送を実行する
-
.....

メールを転送する直前に、前もってサブコマンド "`^p`" を実行してメール内容を確認するようにしたほうがよい。

なお、相手のアドレスを指定する場合、以下に例を示す `.mailrc` ファイルで alias 定義 (別名の定義) しておくとう便利です。例えば、`.mailrc` の中に

```
alias tanaka a79999a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
```

の1行を書いておけば、アドレス "a79999a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp" の代わりに "tanaka" を使うことができます。また、上の(b)の方法でメールを出す場合、メールの本文入力時に "`^v`" と入力すれば `.mailrc` ファイルの中の "`VISUAL=...`" で定義されたエディタを起動して編集することができます。

以下に `.mailrc` ファイルの簡単な例を示します。このファイルは `vi` エディタなどによりテキストファイルとして各自のホームディレクトリに作成してください。

```
set EDITOR=vi
set VISUAL=vi
alias tarou      a79999a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
alias hanako    hanako@ec.kyushu-u.ac.jp
alias tanaka    tanaka@kyu-cs.kyushu-u.ac.jp
alias smith     smith@foo.bar.edu
```

(広報教育室 内線 2 5 0 8)

ライブラリ室だより

花子. 明けましておめでとうございます。

太郎. 今年もセンターをよろしく願います。

花子. 去年の秋から今年にかけてセンターにとっては変化の激しい時期でしたね。

太郎. まず、汎用機のOSの変更（OS IV/F4 MSP→OS IV/MSP）、次にFORTRAN 77 EXの公開が続き、ほっと一息つくひまもなく12月末には、汎用機の入替え（M780→M1800）、UNIXシステムのOSの変更（UTS→UXP/M）と・・・矢継ぎ早にいろいろあったからね。2月末には、いよいよ待ちに待ったスーパーコンピュータの入替え（VP200→VP2600）が控えており、今年もまだまだ忙しい日々が続きそうな気配だな！

花子. 思えば、テスト、テストに追いまくられた毎日でしたね。まだまだ進行形だけだね。ところで、ユーザはFORTRANプログラムのチェックが進んでいるのかな？

太郎. この広報が発行される頃には、ほとんどのユーザがFORTRAN 77 EXコンパイラの方を使用しているはずなだけだね??

3月からFORTRAN 77 EXのみの運用を予定しているから、まだチェックしていない人は、急いでほしいな！動かないものもあると思うんだ。

花子. 図形のソフトPSP, HCBSを使っている人は、以前のFORTRAN 77 配下での使い方だと3月以降動かなくなるんですよ。

太郎. 一応は、旧コンパイラ（FORTRAN 77）の運用は2月末日で停止する予定だけど、状況によっては、図形関係に限ってメンテナしという条件で運用を順延するかもしれないんだ。現時点では、まだ決めていないけど。でも、近い将来、必ず動かなくなる日がくるので、できるだけ早い時期に移行を完了したほうがいいよ。具体的な移行手順を示すと

HCBSを利用してNLPに図形出力するには、

```
ATTR #DCB LR(476) BL(480) REC(VS)
ALLOC F(FT18F001) DA(HCBS.DATA) NEW CAT T SP(10 10) US(#DCB)
FORT77 HCBS.FORT77 LIB('QS.CALCOMP')
NPLLOT HCBS.DATA LIB(HCBS) OUT(0)
```

と4行で入力していたと思うんだけど、これを以下の2行

```
PKS HCBS.FORT GOUT(NPLOT)
NPLLOT GPLOT
```

に変えないと動かないんだ。

PSPを利用してNLPに図形出力する際にも、

```
ALLOC F(FT16F001) DA(PSP.DATA) NEW CAT T SP(10 10)
FORT77 PSP.FORT77 LIB('SYS1.PSPLIB')
NPLLOT PSP.DATA OUT(0)
```

と3行で入力していたのを次の2行

```
PKS PSP.FORT GOUT(NPLOT) PSP
NPLLOT GPLOT
```

に変えないとね。

この辺の話は、センターニュース・広報に詳しく載っているよ。

花子. センターニュース・広報から当分目が離せないですね。じゃ、新しく図形処理サブルーチンを使いたい人は、どういうソフトがお勧めなの？

太郎. 将来的には、いろいろな印刷装置(NLP, OPR, FAX)に出力できるPKSやいろいろな言語(FORTRAN, PASCAL, C)から呼び出して利用できるGKS 85に統一されると思うよ。この

専門室だより

2つのソフトはMSPの新OSからはGSKSというソフトに統合されているよ。詳しくは、

富士通 PKS文法書 V10用(99SP-7200-1)
FACOM PKS使用手引書 V10用(99SP-7210-1)
富士通 GKS85文法書(FORTRAN編)(99SP-8240-1)
FACOM GKS85使用手引書 V10用(99SP-4080-1)
富士通 GSKS使用手引書 V10用(99SP-4140-1)・・・PKS使用手引書とGKS85使用
手引書が統合
九州大学大型計算機センターニュース No. 450, No. 451, No. 452

を見るといいよ。
花子. ジャ、これをきっかけに図形処理のことをもっと勉強してみようかな！

(ライブラリ室 内線2508)